

<総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題

試験時間 120分

- ・古生物学の知見に触発され、太古のオウムガイの化石から、四億二千万年前の月とその光を眺めるオウムガイの姿を事実として知ることの感動を綴った文章からの出題。
- ・本文の分量は昨年度とほぼ同じ。最初の1ページでは科学的な説明が続いており、文系の受験生にとっては読みにくかったかもしれない。ただし、漢字問題が出題され、説明問題は四問となって、解答欄の行数が昨年度の19行から16行に減少した。こうしたこともあり、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問三がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

|              |                          |
|--------------|--------------------------|
| 大問番号         | □                        |
| 出典<br>(作者)   | 松浦寿輝『青天有月』               |
| 頻出度合<br>・的中等 | なし。                      |
| 分量<br>前年比較   | 分量 (減少・ <b>変化なし</b> ・増加) |
| 難易<br>前年比較   | 難易 (易化・ <b>変化なし</b> ・難化) |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)  |
|----|------|----|------|-----|---|
| □  | 随筆   | 問一 | 記述式  | 標準  | 漢字の書き取り問題 (5題)。<br>傍線部の内容を説明する問題 (解答欄5行)。<br>「推論」の範囲をどのように設定するかが重要。<br>傍線部の表現にこめられている心情を説明する問題 (解答欄4行)。<br>傍線部直前の「懐疑論」の内容も踏まえる。<br>傍線部の理由を説明する問題 (解答欄3行)。<br>「精神の営為」として「貧しいもの」であることに留意する。<br>傍線部の内容を説明する問題 (解答欄4行)。<br>「ここのところ」の指示内容を正確に押さえる。 |
|    |      | 問二 | 記述式  | 標準  |   |
|    |      | 問三 | 記述式  | 標準  |   |
|    |      | 問四 | 記述式  | 標準  |   |
|    |      | 問五 | 記述式  | 標準  |   |

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・たんに字面を追うだけの読みとりでは高得点は望めない。文章の主題や筆者の主張を本文全体からの的確に把握するとともに、個々の文脈を精確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえた上で、理解した事柄を簡潔・的確に表現してみるといった訓練も欠かせない。
- ・なお、普段の学習においては、書き上げた自分の答案を音読して、解答の構成や表現が適切かどうかを確かめてみよう。文章表現の訓練の一助となるはずだ。
- ・漢字の設問は必ず出題されるとは限らないが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

<総括>

|     |              |      |      |
|-----|--------------|------|------|
| 出題数 | 現代文 2題・古文 1題 | 試験時間 | 120分 |
|-----|--------------|------|------|

- ・日々を怠惰にやり過ごしてきた主人公が、息子の様子を見たことをきっかけに、自らの生のありように思いを馳せた小説からの出題。
- ・小説からの出題は2012年度以来4年ぶりである。
- ・解答行数が昨年よりも3行減少。

<本文分析>

|              |                           |
|--------------|---------------------------|
| 大問番号         | 二                         |
| 出典<br>(作者)   | 黒井千次「聖産業週間」               |
| 頻出度合<br>・的中等 | なし                        |
| 分量<br>前年比較   | 分量(減少・変化なし・増加) *約1000字増加。 |
| 難易<br>前年比較   | 難易(易化・変化なし・難化)            |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問                         | 設問形式                            | 難易度                         | コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)  |
|----|------|----------------------------|---------------------------------|-----------------------------|--|
| 二  | 小説   | 問一<br>問二<br>問三<br>問四<br>問五 | 記述式<br>記述式<br>記述式<br>記述式<br>記述式 | 標準<br>標準<br>標準<br>標準<br>やや難 | 傍線部の内容説明問題(解答欄2行)<br>傍線部の内容説明問題(解答欄4行)<br>傍線部の内容説明問題(解答欄3行)<br>傍線部の内容説明問題(解答欄2行)<br>本文全体を踏まえ主人公の心情を説明する問題(解答欄5行) |

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・本年の文系二では小説からの出題であったが、これまでの出題を踏まえ、随筆や評論も含めてできるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

|     |                |      |      |
|-----|----------------|------|------|
| 出題数 | 現代文 2題 ・ 古文 1題 | 試験時間 | 120分 |
|-----|----------------|------|------|

- ・平安前期の歌物語『伊勢物語』からの出題で、昨年が続いて有名出典からの出題であったが、設問に江戸時代の学者による『伊勢物語』の注釈『勢語臆断』が引用されて設問にもなっていた。
- ・さらに、設問に『説苑』所収の漢文(返り点・送り仮名付き)が引用されて設問にもなっていた。
- ・漢文が引用されて設問に関わったのは文系でははじめてである。(理系では11年で出題されている)
- ・本文のほとんどは和歌5首で占められていた。
- ・解答数は昨年より一つ増えて6つであった。
- ・問一以外はすべて和歌に関連する設問であった。

<本文分析>

|              |  |
|--------------|--|
| 大問番号         | 三  |
| 出典<br>(作者)   | 『伊勢物語』   |
| 頻出度合<br>・的中等 | 頻出出典、出題箇所は稀  |
| 分量<br>前年比較   | 分量 <span style="border: 1px solid black;">減少</span> ・変化なし・増加 約210字(前年は約870字) |
| 難易<br>前年比較   | 難易(易化・ <span style="border: 1px solid black;">変化なし</span> ・難化)               |

<大問分析>

| 大問 | ジャンル | 設問 | 設問形式 | 難易度 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)  |
|----|------|----|------|-----|---|
| 三  | 歌物語  | 問一 | 記述式  | 標準  | 説明問題。設問に引用する『勢語臆断』の解説を参考にし<br>て傍線部を説明する。引用の『勢語臆断』から傍線部の人<br>物関係を押さえて説明するのがポイント。(解答欄2行)  |
|    |      | 問二 | 記述式  | やや難 | 説明問題。「鳥の子を十づつ十は重ぬとも」という表現に<br>ついて、設問に引用する『説苑』の漢文とAの歌との違い<br>を比較しながらAの歌の内容を説明する。返り点・送り仮<br>名があるにしろ、漢文の内容を踏まえてそれとの違いを意<br>識して和歌を説明するのはなかなか難しい。(解答欄4行) |
|    |      | 問三 | 記述式  | 標準  | 現代語訳問題。Bの歌の解説として設問に引用する『勢語<br>臆断』の文章を現代語訳する。「あだなる世の人の心」が訳<br>しづらい。(解答欄3行)   |
|    |      | 問四 | 記述式  | 標準  | 現代語訳問題。(2)(3)とも和歌の一部の現代語訳で<br>あるが、「比喩の意味が明らかになるように言葉を補いつ<br>つ」という条件が付いている。(2)(3)とも比喩の意<br>味を明らかにするために言葉を補うところがポイント。<br>(どちらも解答欄2行)                  |
|    |      | 問五 | 記述式  | 標準  | 現代語訳問題。Eの歌の現代語訳で条件は付いていない。<br>下の句「いづれ待ててふことを聞くらん」がポイント。(解<br>答欄2行)  |

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断  
しています。

<学習対策>

- ・一昨年と同じ平安時代からの出題であったので、『源氏物語』を代表とする中古の典型的な古文に慣れて  
おく必要がある。
- ・ほとんどの設問が和歌がらみであった。修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておき  
たい。
- ・漢文(返り点・送り仮名)が出題された。この傾向が続くかどうかかわからないがセンターレベルの漢文を  
読む練習が出来ておればよいだろう。
- ・本文全体を現代語訳できるかどうか京大文系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに  
望まれる。